

市内企業向け官民連携勉強会

行田市基本構想について



行田市

第6次行田市総合振興計画(R3年度～R12年度)を廃止

自治体が策定する一般的な総合計画は…

- 市の施策全般を網羅する最上位計画で、計画期間は10年間
- 将来目指すべきまちの姿を長期的な視点(10年～20年先)で策定
- 市民にかかわる福祉や医療、環境、教育など内容は全分野を網羅
- 「基本構想」「基本計画」「実施計画」からなる3層構造※

※ 基本構想 … 目指す将来像や各分野の施策の方向性を示す(10年計画)

基本計画 … 具体的な施策を示す(前期:5年計画、後期:5年計画)

実施計画 … 具体的な事業や年次計画を定める



全4章で構成

第1章 はじめに

～ 策定の趣旨、位置付けと期間

第2章 行田の「今」

～ 行田の地勢、歴史、現状と課題、市の人口等データ

第3章 行田の「未来」

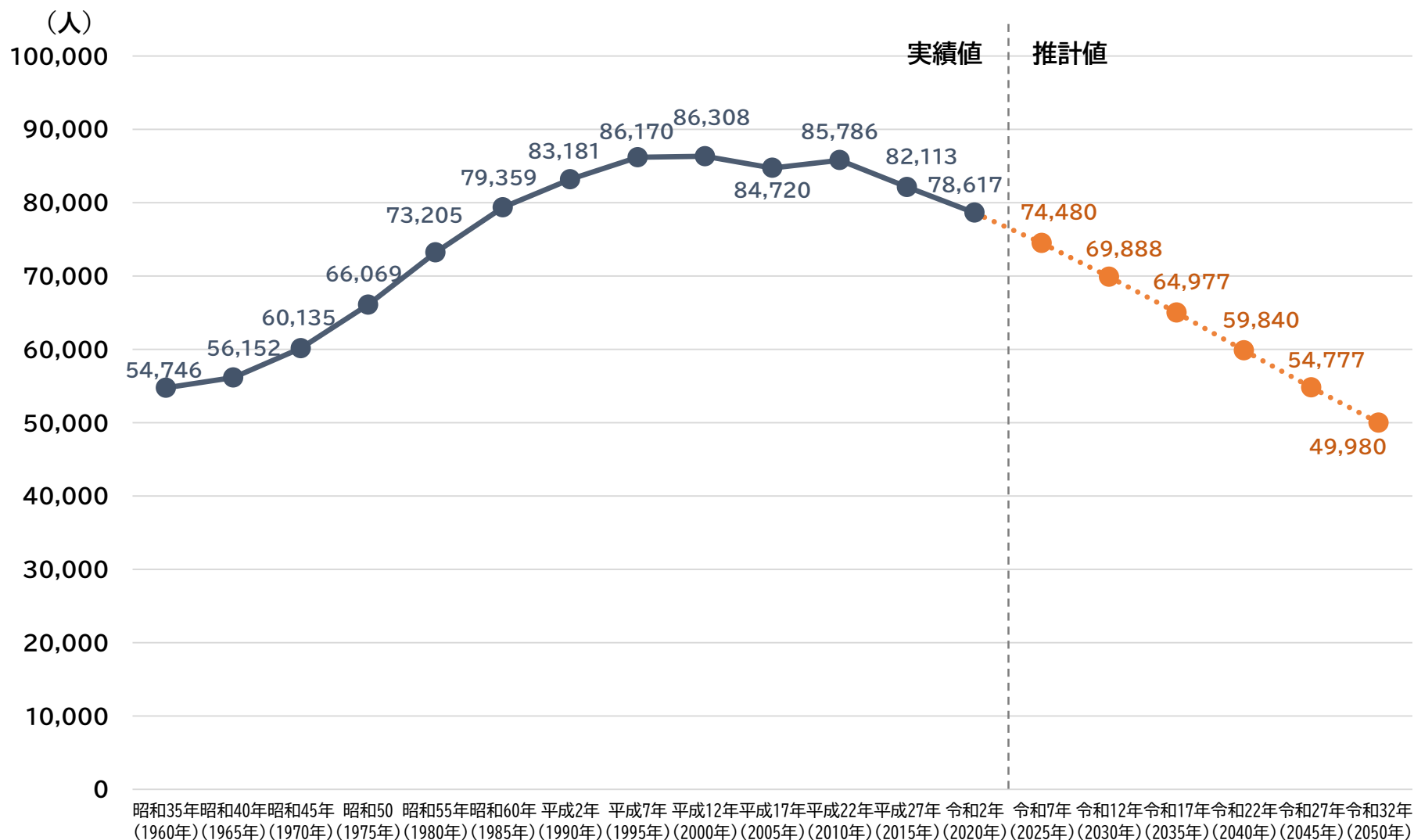
～ 行田市の将来像、土地利用構想

第4章 「未来」のために

～ 「新しい行田の好循環」に向けた重点政策

行田市基本構想 第2章 行田の「今」

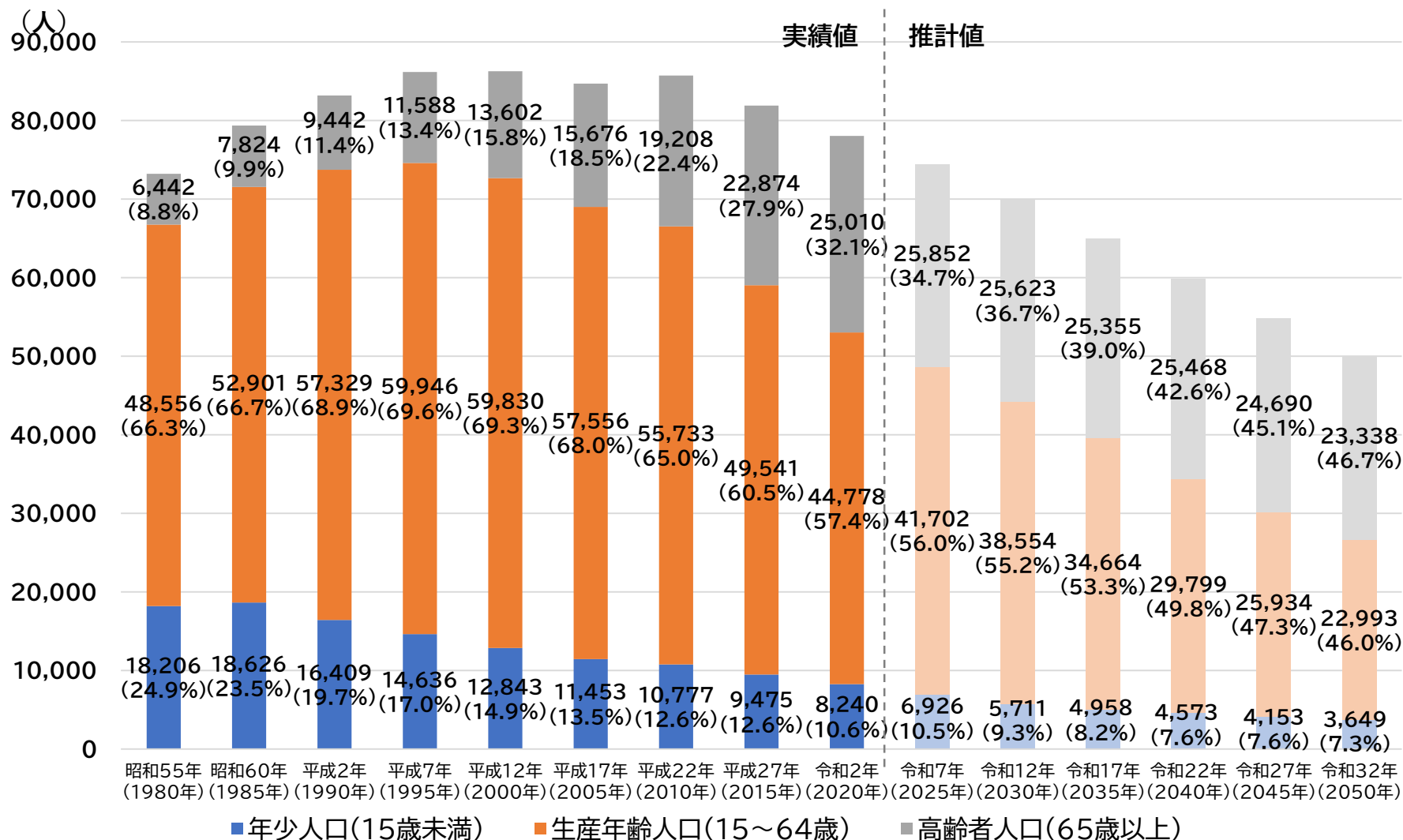
総人口の推移と今後の推計



出典:国勢調査(～令和2年)及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和7年～)

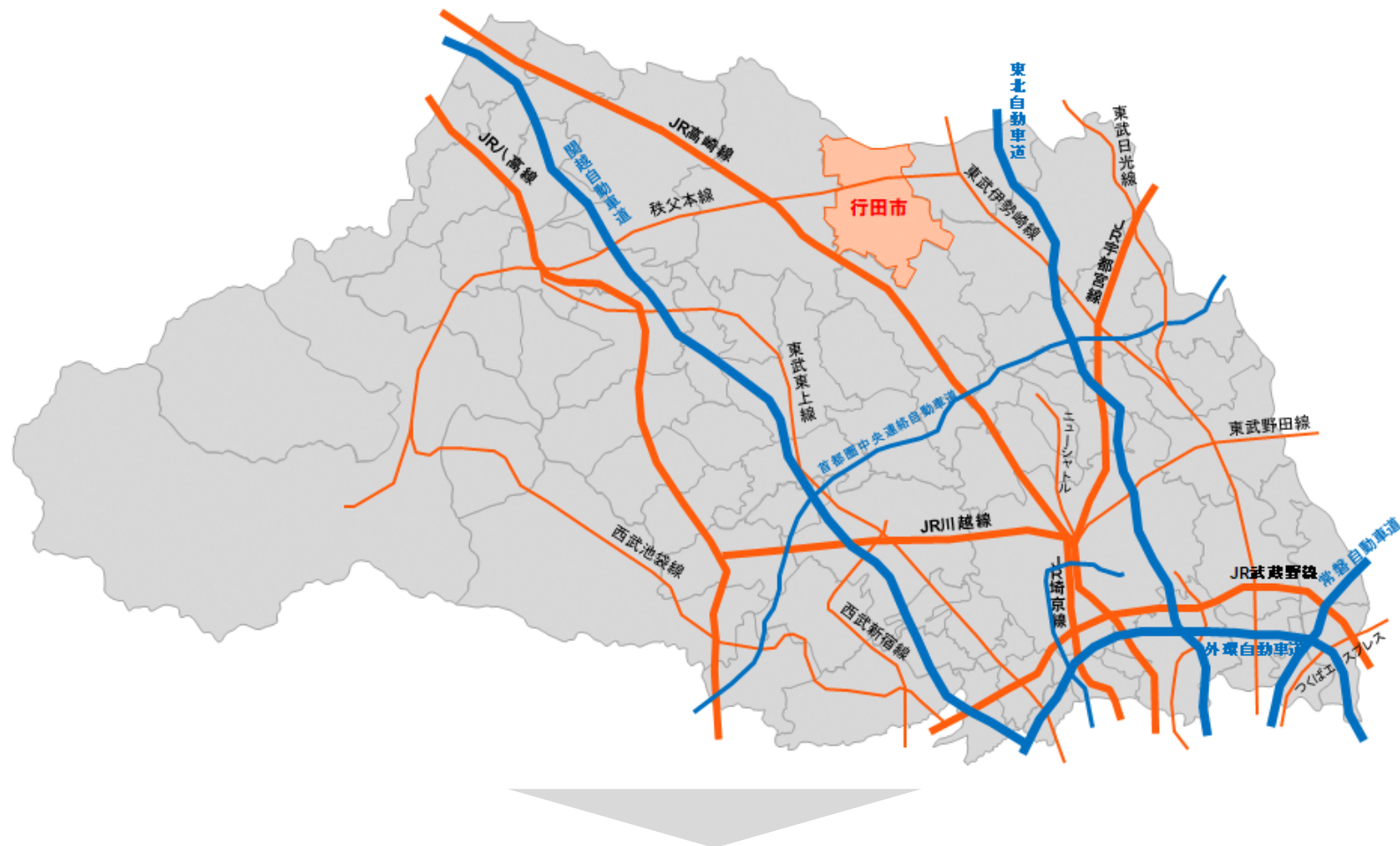
行田市基本構想 第2章 行田の「今」

年齢3区分別人口の推移



出典: 国勢調査(～令和2年)及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和7年～)

埼玉県内の鉄道網・高速道路網

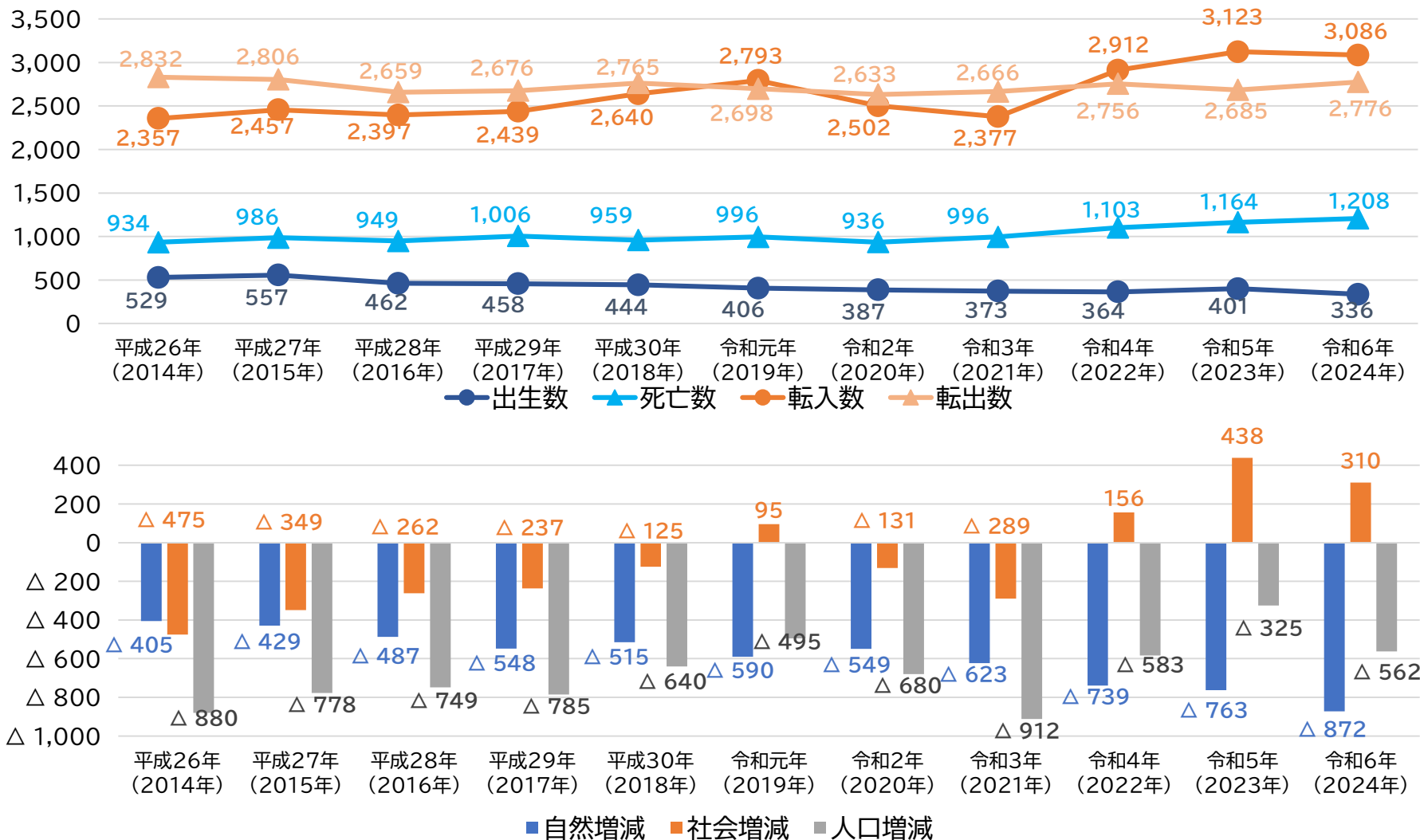


JRの鉄道駅が中心市街地にない
高速道路のインターチェンジから距離が離れている

行田市基本構想 第2章 行田の「今」

人口増減内訳

(人)



出典:住民基本台帳

新しい行田の将来像 メッセージ

この街で暮らす誰もが、希望に満ちた明日を夢みているはずです。
でも、思うだけではなかなか叶いません。大切なのは、その夢のためにあなた自身が動きだすこと。

「行田市」は、そんなあなたの夢を応援する街として動き出します。
街のすべての人が、幸せでいられるように後押しします。

子どもたちの笑い声が響き渡り、大人たちが笑顔で会話を交わす街。
由緒ある歴史と豊かな自然のなかで「新しい行田」を一緒に作っていきませんか。
漠然と「暮らしやすい街」と言っても、その形態は多種多様です。
この「行田に暮らす人達」にとって、どんなふうに暮らしやすいのか、どうすれば住みやすい街になるのか。それをひとつひとつ語り合い、実現できるように工夫して、あなたの思う「理想の街」を一緒に作っていきましょう。

「行田市の将来」、それはこの街で暮らす人達と作り上げる物語なのです。

新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 01）

梅雨の合間の爽やかに晴れた土曜日、一組の夫婦がJR行田駅に降り立った。彼らは子どもの学校入学を前にマイホームの購入を検討していて、今日は候補地の一つである行田市を、この地で長年暮らす友人夫婦に案内してもらう予定になっている。

2人が階段を下りて駅舎を出るとロータリーが広がり、バスが何台か待機している。ロータリーの端にあるお店にはひっきりなしに人が出入りしている。オンラインで事前注文したお弁当を受け取って、これから電車に乗り込む人のようだ。友人のクルマを見つけて、2人は駆け寄る。

「お待たせ！ 待った？」

「今来たところだよ。電車の時間に合わせて来たから。」

「早速行きましょう。」

4人を乗せたクルマがロータリーを出て幹線道路に入ると、沿道にはマンションやオフィスビル、その少し奥には戸建ての住宅が建ち並んでいる。

「この辺りは駅が近いし便利そうだね。」

「そうだね。少し奥にはスーパーやクリニック、子どもが遊べる公園もあるし、普段の生活はここで事足りるかな。」「都内に行きたければすぐ電車に乗れるしね。」

「なるほど。便利そうだな。」



新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 02）

クルマが新幹線の高架をくぐり、国道17号バイパスとの交差点に差し掛かると、赤信号で停止した。

「ここを横切ってる道路、ずいぶん幅が広いけど、真ん中の空いてる部分は何？」

「このバイパスの上下線の間は、高架道路が通る予定なんだ。高規格道路っていうらしいけど、高速道路みたいなものなのかな。少し前に事業化が決まったって聞いたよ。」

「へえ。それは便利なるね。」

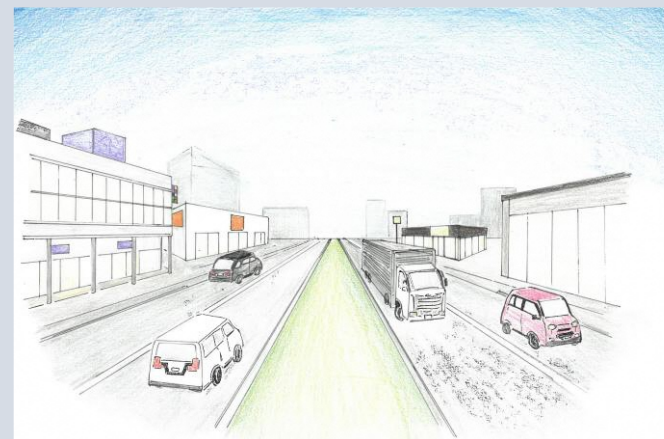
「そうだね。開通して市内にインターチェンジができれば、圏央道もかなり近くなるよ。」

「そうなんだ。圏央道が近いと車での家族旅行も行きやすくなるね。」

「そう、今から楽しみにしてるんだ。」

「交通量が多いだけあって、沿線はお店が多いのね。」

国道17号バイパス高規格化の事業化が決定したので、沿線には開通を見越した企業の進出が進んでいる。道路を横切るときに、工場や物流施設に混じって、ロードサイド型のお店や飲食店も見えた。週末だけあって、どの店も駐車場は多くのクルマが止まって賑わっている。スーパーとファミリーレストランの間にある建物の屋上からは、ドローンが引っぱりなしに発着していて、運送会社の配送所のようなのだ。



新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 03）

クルマが街なかに入ると、道路の両側に広がる大きな水辺が視界に飛び込んでくる。

「市街地なのに随分大きな池があるんだね。」

「水城公園って言って、忍城のお濠跡を活かした公園なんだ。奥の芝生広場ではよくイベントをやってるよ。」

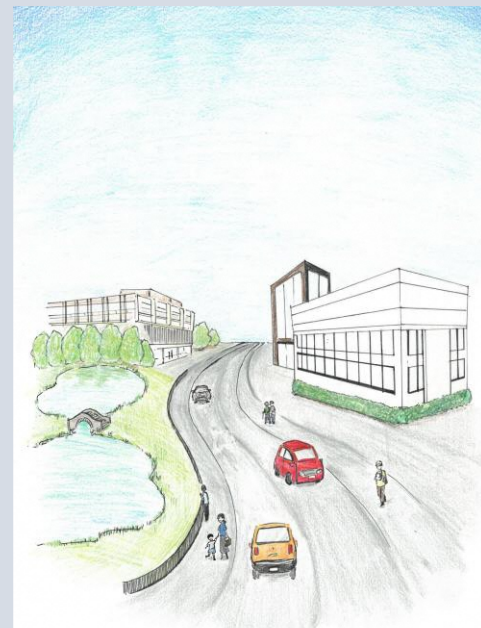
「街なかこんなに大きい公園があるのは贅沢だな。前に見えるのはホール？」

「1,000人以上入れる大きなホールだから、アーティストのコンサートをよくやるよ。今日の夜は、スターダスト☆レビューのコンサートがあるはずだけど。」

「それでこんなに人が多く行き交ってるんだね。」

行田市駅周辺の市街地には、市や県の公共施設が集約され、ワンストップで様々な行政手続きを済ませることができる。そしてその周囲には、ホールやバンケット、ビジネスホテル、そしてシェアオフィスなどの建物が並んでいて、コンサートや大規模な会議などのイベントが開かれ、多くの人々が交流する場となっている。また、最近の再整備で様々な施設が整備された一方で、行田のもつ歴史的な魅力もきちんと残されている。城下町時代の町割りが残り、足袋蔵をはじめとした歴史的建築物が点在するこの地区は、落ち着いた景観の街並みを形成している。

スマートフォンを片手に、観光客たちが街なかを歩き回る姿も、市街地の風景の一部となっている。



新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 04）

行田市駅周辺の市街地を一通り回った後、クルマは郊外に向かう幹線道路を走っていた。

「あの高い塔は何？」

「あれは行田タワーだよ。高さが50mあって、エレベーターで上に登ると田んぼアートが見られるんだ。」「田んぼアートは昔、世界ギネス記録にも認定されたのよ。」

「そういえばニュースで見たことがあるな。下は公園になってるの？」

「古代蓮の里っていう公園で、初夏になるとたくさんの蓮の花を間近で見ることができるんだ。花だけじゃなくて、園内を見渡しながらゆっくりできるカフェとか、行田の食材を使ったレストランがあったり、土産物も揃ってるから、県外ナンバーのクルマも結構来てるよ。あとは、近所で

採れた新鮮な野菜や加工品も販売されているから、観光客だけじゃなくて地元の人も結構行くんだ。」

「へえ、それはいいね。都会じゃなかなかそういうところはないからな。野菜嫌いのうちの子も、採れたての野菜なら嫌がらないかもしれないな。」

郊外にある古代蓮の里やさきたま古墳公園の周辺は、行田の一大観光ゾーンになっている。春先には、さきたま古墳公園が多くの花見客でにぎわい、初夏が訪れると古代蓮の花が咲き誇り、その香りが朝の風に乗って広がる。また、周辺は野鳥の種類が多く、四季折々にバードウォッチングが楽しめる。さきたま古墳公園では、石田三成の気分になって丸墓山古墳から行田の街を一望できる。これらの施設では、田んぼアートや古墳フェスなど様々なイベントが開催され、行田の特産品や新鮮な野菜なども販売されているので、1年を通して多くの観光客や市民が訪れ、賑わっている。また、こうしたシチュエーションや景観に惹かれて、最近は海外からも多くの観光客が訪れている。



新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 04 つづき）

「ところで、行田で暮らすとなるとやっぱりマイカーが必要かな？」

「JRの駅と主要なスポットは、路線バスや循環バスが通ってるし、行田には乗り合いのデマンド交通もあるんだ。スマートフォンから呼べるから利用する人も多いよ。もちろんクルマはあった方が便利だけど、なくても十分に生活はできと思うよ。」

「それなら安心だな。」

「あとはスマートフォンの専用アプリで予約できるシェアサイクルもあるから、天気の良い日は自転車で移動する人も多いよ。健康にもいいしね。」

JRの駅と市街地、観光ゾーンなど、市内各地への移動は、バスやデマンド交通のほか、ライドシェアや観光客向けのレンタサイクル、市民向けのシェアサイクルなど多様な選択肢が用意されており、市民や観光客は、目的に合わせて様々な手段で移動することができる。

新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 05）

続いて、クルマは国道125号を越えて北に向かう。

「この辺りは田んぼが多いんだね。」「陽射しが水面に反射して綺麗。」

「行田は農業が盛んで、米や小麦を作ってる農家が多いよ。農家が減って耕作放棄地が増えた時期もあったけど、最近は集約が進んで農業法人が大規模にやっているとところが多いみたい。」

「でもあまり人の姿が見えないね。」

「AIやロボットを使ったスマート農業が増えてきてるからね。トラクターもほとんど自動操舵じゃないかな。あとは、米や麦をただ出荷しているだけじゃなくて、米粉を使ったパンやパスタを作ったり、ビール麦を使った地ビールも人気だよ。」

「ぜひ飲んでみたいな。あっちのビニールハウスは何？」

「イチゴかな。行田は米や麦の農家が多いけど、野菜とか、梨やイチゴなんかの果物を作ってる農家もあるよ。」

都心では見られない、美しい田園風景が広がる郊外。行田では、農地の集約が進んでいて、農業法人が大規模に営農しているケースが多く、AIやロボット技術を活用した省力化も進んでいる。営農だけでなく、その後の加工や販売まで手掛けるなどビジネスとして成立しているので、都内から移り住んできた若者もこうした農業の担い手となっている。また、お米はそのまま出荷されるだけでなく、米粉を使ったパンやパスタ、お菓子などを作って販売する六次産業化が進んでいるほか、イチゴや梨、野菜などの付加価値の高い作物を育てる農家もいて、最近では新規の就農者も増えている。さらに、農業だけでなく体験農園や、豊かな自然を活かした利根川でのジェットスキー、舟での川下りなど、市民や観光客が自然に触れることができる環境が豊富に用意されている。星川の土手では、冬から春にかけて絶滅危惧種のキタミソウが一面に咲き誇り、夏になるとホタルが舞っていて、訪れる人々に癒しを与えている。



新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 05 つづき）

「ところで、行田って災害対策は大丈夫？」

「見てのとおりに平らな土地で山もないから、地震があっても崖崩れとかはまずないね。」

「台風とかゲリラ豪雨は大丈夫？」

「堤防や調節池はもちろんだけど、その他にも学校の校庭貯留とか田んぼダムとか、いろいろな対策がされてるよ。それに万が一のときはスマートフォンで避難所の開設状況や混雑状況とかが分かるし、どこに避難すればいいか案内もしてくれるんだ。」

「そういうところに住めると安心だな。」

新しい行田の将来像（将来の「まち」のすがた Scene 6）

「それじゃあ一通り回ったから、JR行田駅に戻るよ。」

「ありがとう。そういえば、行田にも大学があるって聞いたけど、どういう大学なの？」

「行田市には「ものづくり大学」という大学があって、日本が世界に誇るものづくりの技術を学びに、全国から学生が来ているんだ。」

「行田市は教育に熱心なのかな。」

「そうだね。ものづくり大学でも「こども大学行田」っていうのをやってて、うちの子も参加したことがあるんだ。あとは秋の学園祭にも毎年行ってて、お姉さんやお兄さんにタイルで作るコースターづくりを教えてもらったことがあって、今でも毎日使っているよ。」

「そういう学びの場があるのはいいね。ところで、今日案内してもらって街の様子は一通り分かったけど、行田の子育て支援とか教育ってどんな感じなの？」

「それなら、市のウェブサイトで「行田市基本構想」という市の計画がみられるんだけど、その中の「将来のひとの姿」というところを読んでもみると様子がよく分かるよ。」

「分かった。帰ったら見てみるよ。今日はどうもありがとう。」

新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 01）

「行ってきまーす！」

子どもたちの朝は、スクールバスに揺られて始まる。行田の子どもたちはみんな、小中一貫の義務教育学校に通っていて、多くの友達と切磋琢磨しながら学びを深めている。ここでは低学年から英語教育やICT教育が行われ、子どもたちは学力だけでなく、時代の要請に応えるスキルと生き抜く力を身につける。そして、柔軟で質の高いカリキュラムで、子どもたちをフォローする体制と、学ぶ意欲のある子どもたちの学力を徹底的に引き上げる仕組みが整っているので、学力テストの結果はいつも、県平均を大きく上回っている。

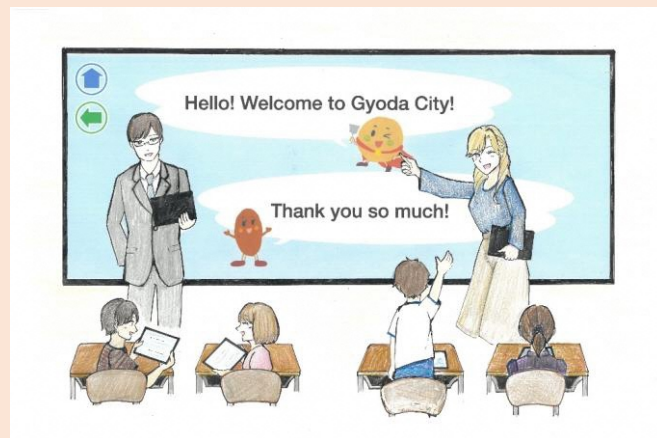
子どもたちはある日、課外授業でさきたま古墳公園を訪れた。そこに来ていた外国人観光客に、一人の子が進んで声をかける。

「Hello! Welcome to Gyoda City!」

そして続けて、埼玉古墳群や行田の歴史について、英語で誇らしげに説明する。外国人たちは少しだけ驚いた表情を浮かべながら、子どもたちの英語に熱心に耳を傾ける。行田では、義務教育学校だけでなく幼稚園にもネイティブスピーカーが派遣されていて、子どもたちが幼いうちから英語に慣れ親しむ環境が整っている。また、英語やICTと同じくらい、豊富な歴史資産を活かした郷土学習にも力が入れられていて、子どもたちは英語を話せるだけでなく、自分が生まれ育った日本やふるさと行田に誇りを持つ国際人としてのアイデンティティを、義務教育学校の9年間を通して確立する。

午後の授業が終わると部活動の時間。子どもたちは再びスクールバスに乗って総合公園へ向かう。

「ファイト!」、「ラスト一周、がんばれ!」



新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 01 つづき）

ここでは、市内3つの学校から集まった子どもたちが、野球やサッカー、バスケットボールなど、多くの種目から自分の好きな競技を選んで、統一チームで練習に励んでいる。種目ごとに専任のコーチが丁寧に指導してくれるので、上達も早く、県大会や全国大会に挑むチームも少なくない。3校の子どもたちが一緒に活動するので、別の学校の生徒とも仲良くなり、友人のネットワークが広がっていく。

こうしたクラブ活動は、もちろんスポーツだけではない。吹奏楽や美術、写真など文化部の活動も盛んで、こちらもその道のプロが教えてくれるので、文化芸術の分野でも、世界に誇る人材も輩出している。

新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 02）

学校が終わると、スクールバスで自宅に帰る子、親が仕事から戻る夕方まで学校の敷地内にある学童保育室に向かう子など子どもたちの過ごし方は様々だ。

街なかにある古い大きな一軒家。ここは昔、足袋の製造と販売で財を成したある経営者の自宅だった建物で、主のいなくなった今は中が綺麗にリノベーションされ、NPO法人が運営する「子どもたちの居場所」として使用されている。今日も夕方になると、子どもたちが数人やってきた。

「ただいまー。先生はもう来てる？」

「奥の部屋でもう準備してるよ。今日も練習？」

「うん。来月ゲームショウの大会に出ることになったんだ！」

子どもたちは奥の部屋で、モニターに向かってコントローラーを操作する。傍ではeスポーツを教えるボランティアの大学生が熱心に指導している。

ここには、すぐに自宅に帰っても一人きりになってしまう子どもなど、様々な子どもたちが集まってくる。そして、こうした子どもたちをサポートする大人たちも集まってくる。別の部屋で子どもの宿題の面倒をみている近所の高齢の男性は元エンジニアのようだ。近所にあるケーキ屋の定休日には、主人が土間の台所で子どもたちのおやつのパンケーキを焼いている。

こういう「子どもの居場所」が、行田にはそれぞれの地区にあって、子どもたちはたくさんの大人や仲間たちに囲まれて、安心して、いきいきと毎日を過ごすことができる。



新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 03）

「パパ、次はあっちの古墳に登る！」

都心にはない広大な敷地に、古墳を活かしたアップダウンの豊かな雄大な景色広がる。“古墳で遊ぶ”という都心では決して体験できない贅沢な空間。それに加えて、子どもの遊具やちょっとした室内遊園地、カフェテラスまでが揃うこの公園は、週末になると家族連れの姿で賑わう。

小さな女の子がカフェのテラス席に座っているお父さんの手を引っ張る。女はワクワクしている様子で、目が輝いている。お父さんはコーヒーカップをテーブルに置いて微笑んだ。

「ちょっと待って。ママも一緒に行こうよ。」

お母さんは読んでいた本から視線を上げて、しおりを挟んでから本を閉じると、テーブルから立ち上がった。

「いいね、行きましょう。」

「あ、待って！」

行田に引っ越してきてから家族の一員になったゴールデンレトリバーが駆け出し、女の子が夢中で追いかける。

広場ではレジャーシートを広げてお弁当を食べている親子や、水鉄砲で無邪気に水をかけあう子どもたちもいて、休日の公園は家族の笑顔で溢れている。

「そういえば、予報だとこの後は雨になりそうよ。戻ってきたら、今度は中に入ってボルダリングでもやってみない？」

「うん！そうする！」



新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 03 つづき）

行田市では、子どもの保育や医療が無償になっていたり、一時預かりや病児保育、病後児保育なども充実していて安心して子育てができる。さらに義務教育学校での教育レベルも高いので、進学や就職で一度行田を離れた若い人が、結婚や出産などを機に行田に戻ってくることが多くなっている。数年前からは、新たに行田に引っ越してくる子育て世代も増えてきて、街なかにはいつも、子どもたちの声が響いている。

新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 04）

街かどの木々の葉が太陽の光を遮り、重厚な造りの足袋蔵が静かに佇む。入口の扉を開けると、ほんのりとコーヒーの香りが漂ってくる。行田の街なかには足袋蔵をはじめ、歴史ある建築物が多く残っているが、その一部はカフェやお店、ギャラリーとして活用されていて、多くの人々が日常的に利用している。

「何かお困りですか？」

歴史ある蔵をリノベーションしたカフェの中で、隣のテーブルで地図を広げるグループに話しかける。4人グループの彼女らが座るテーブル席の上には一眼レフが何台か置かれていて、初めて行田に来た観光客のようだ。

「今日は1日行田を観光しようと思って来たんですけど、見どころが多いから、まずどこに行こうか迷っちゃって。」グループの一人が言う。

「それなら、まずは忍城址に行ってみたらどうですか？博物館もあって、御三階櫓に上がってお殿様、いやお姫様になった気分で街なかを見渡すこともできますよ。お城の周りには花手水とか、撮影スポットもたくさんありますよ。」

「本当ですか？じゃあそうしようかな。」

彼女らがお店を出てお城に向かう道中、足袋蔵を活用したお土産屋さんや、木目調の外観をしたパン屋など、落ち着いた街並みが目に入る。途中、着物姿で歩く若いカップルや、近所の人だろうか、犬の散歩をしている年配の男性とすれ違った。



新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 04 つづき）

古墳公園や忍城址、足袋蔵など、行田の豊富な歴史資源は、都会や海外からの観光客を惹きつけるだけでなく、市民にも落ち着いた環境を提供している。市民は日常的に、水城公園や街なかを散歩したり、歩き疲れると足袋蔵を活用したカフェで一休みする。こうした、行田ならではの歴史や文化が、何気ない普段の生活に息づく姿は、市民の誇りや心の豊かさに繋がっている。

新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 05）

今日は月に一度のお茶会の日。文化会館の和室では茶道部のメンバーが心を込めてお茶を点てている。指導する先生は初老の男性で、メンバーの中には着慣れない和服を着て、ぎこちない動作でお茶を点てる外国人の姿もあった。点てたお茶は、メンバーだけでなく、お客さんにも振舞われる。

「今日のお茶は一段と美味しいね。」

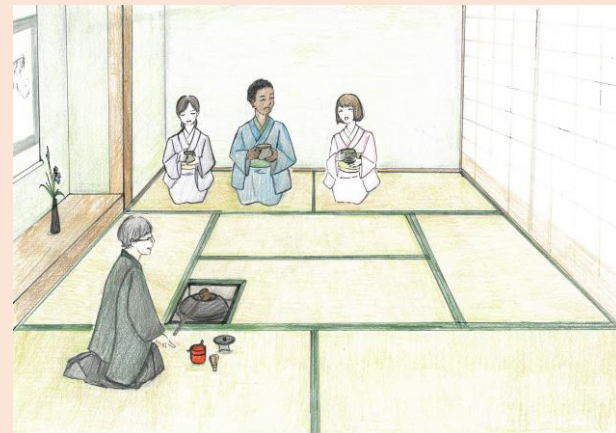
30代後半と思しきお客の男性はジャズダンスクラブのリーダーで、よく練習スペースが隣同士になり、日ごろから顔を合わせる仲間だった。

「ありがとう。ダンスの練習は順調？」

男性は照れくさそうに頷いた。

「みんな頑張ってるよ。発表会が近くなって、先生の指導も熱が入ってるんだ。発表会が楽しみだな。やっぱりこのホールは音響がいいからね。」

2人がお茶を飲みながら窓の外を見ると、外で練習するBMXのライダーが空中でトリックを決めていた。若者に混じって高齢のライダーも奮闘している。敷地の一面に整備されたスケートボード広場にも多くの人が集まっていて、活気に溢れている。



新しい行田の将来像（将来の「ひと」のすがた Scene 06）

平日のお昼前、地域の公民館に多くの人が集まっている。ここには週に数回、移動販売車がやって来て、生鮮食品や日用品、医薬品などを販売してくれるので、運転免許証を返納したり自転車に乗れなくなったりして遠出が難しい人も、対面で買い物をすることができる。販売車は、管理栄養士やケアマネジャーともオンラインで繋がっているので、栄養面で気になることや、健康上のちょっとした不安などを気軽に相談することができる。

「今日もありがとう。怪我をしてから遠出が億劫だね。ここに来ると色々な用が済んで助かるよ。」

対応してくれたケアマネジャーの女性に、車いすに乗った男性が感謝を伝える。彼は勤めた会社を定年退職した後、交通事故で車いすでの生活になったが、長年の趣味を活かして、今もこの公民館で華道の講師として活躍している。

「どういたしまして。最近も子どもたちの宿題をみてあげてるんですか？」

画面の向こうでケアマネジャーの女性が聞く。

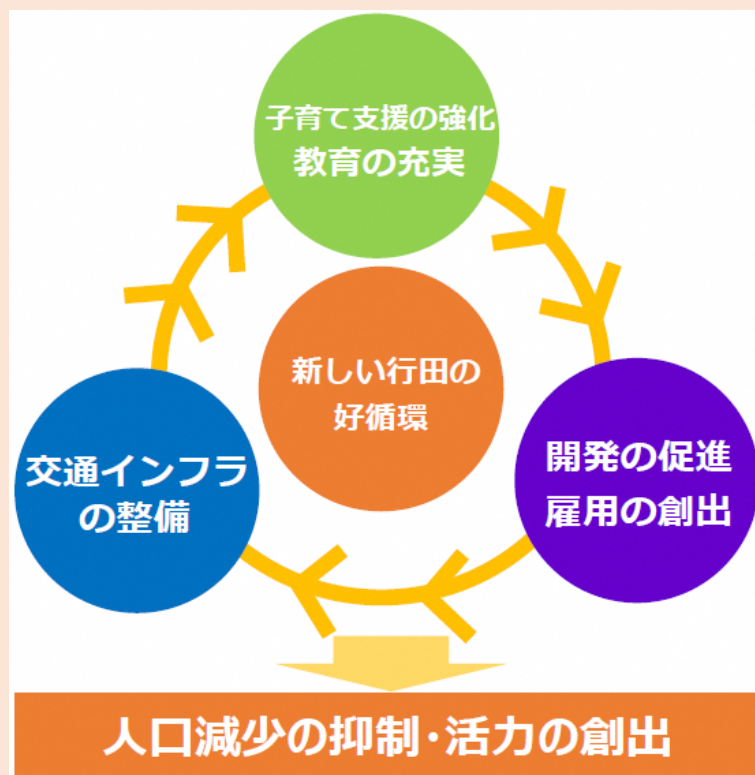
「週に何回か行ってますよ。子どもたちに感謝されるのが嬉しいし、何より子どもと話をしていると気持ちも若くなるんですよ。」

行田では、歳をとってクルマを運転できなくなったり、障がいがあったりして一人で遠出ができなくても、みんな幸せそうに見える。元気なお年寄りや障がい者もたくさんいて、社会や地域で活躍できる環境も整っている。彼らや彼女らは、地域での「居場所」を手に入れ、社会での「役割」をこなすことで、幸せな毎日を送っている。



新しい行田の好循環に向けた重点政策

新しい行田の好循環



重点政策1 子育て支援の強化と教育の充実

- 子育てにもっと余裕を、子育てをもっと楽しく
- 英語だけじゃない、魅力ある教育を子どもたちに

重点政策2 開発の促進と雇用の創出

- 企業誘致で雇用を行田に
- 行田で育てよう、起業も農業も

重点政策3 交通インフラの整備

- 未来を切り開く、行田に高速道路を
- 駅を、都心を、もっと近くに

重点政策1 子育て支援の強化と教育の充実

0歳から18歳まで切れ目なくサポート

0歳～2歳	3歳～5歳	6歳～18歳
<div>行田市独自</div> 3歳未満児保育料無償化 おうち子育て支援事業	幼児教育 及び 保育無償化	授業料 負担軽減
子ども医療費無償化		

3歳未満児保育料無償化

令和7年度事業費:1億768万7千円

- ・国に先駆けて所得制限のない3歳未満児の保育料無償化を引き続き実施

おうち子育て支援事業

(こども誰でも通園制度など)

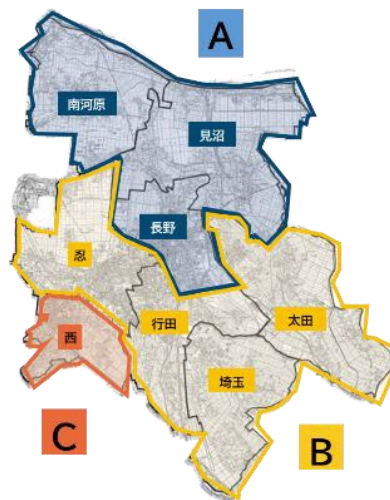
令和7年度事業費:4,614万9千円

- ・未就園の0歳6か月から3歳未満児を対象とした「こども誰でも通園制度」を通年で実施



義務教育学校設置に向けた基本構想の策定

令和7年度事業費:2,547万9千円



小中学校20校

義務教育学校3校

英語のできる行田っ子

令和7年度事業費:7,231万6千円

- ・ネイティブの指導員を全幼稚園8円に派遣し、幼児期から英語に触れ合い英語の好きな子どもを育成
- ・英語力判定ツール(GTEC)を導入し、英語4技能「話す・聞く・読む・書く」を実践的な状況設定で測定しスコア化することで、生徒の習熟度や課題を的確に把握し指導に活用 等

重点政策2 開発の促進と雇用の創出

まちなかウォーカブル推進

令和7年度事業費：7000万円

- ・行田市駅南口の再整備をはじめ、歩道の段差解消、休憩スペースの設置等を実施し、中心市街地の魅力を活かした居心地が良く歩きたくなるまちづくりを推進



R 7	・南口駅前広場再整備 ・歩道整備設計
R 8	・歩道整備 ・八幡通事業活用調査
R 9～R 11	・歩道整備 ・カラー舗装 ・休憩スペース ・ワークショップ など

若者層向けの奨学金返還支援

令和7年度事業費：780万円

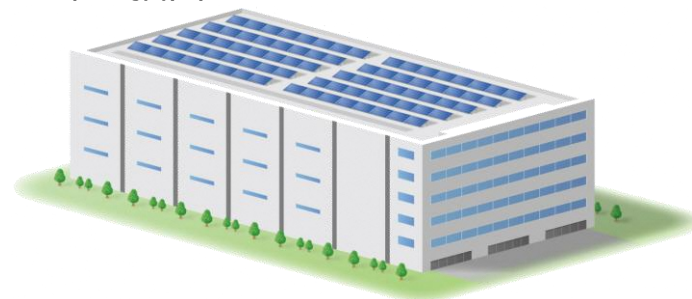
- ・若者の移住促進を図ることを目的として奨学金返還支援金を最大3年間交付



企業誘致の促進

令和7年度事業費：954万3千円

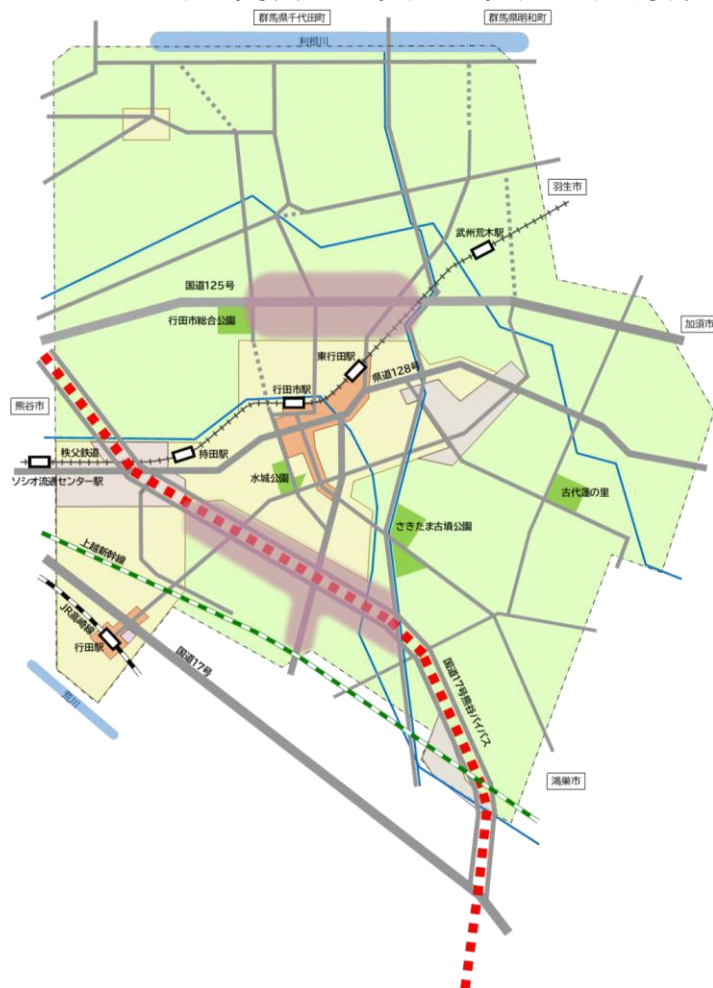
- ・企業立地候補地における埋蔵文化財の先行試掘調査を実施
- ・民間が保有する企業情報を基に誘致の可能性が高い企業を抽出



重点政策3 交通インフラの整備

国道17号バイパス高速道路化要望

- ・市内への高速道路インターチェンジの設置を実現させることで産業振興・雇用の促進の起爆剤に



乗合型AIオンデマンド交通

令和7年度事業費:4,588万円

- ・利用予約に応じてAIが目的地までの最適ルートを設定し、同じ時間帯に同じ方向へ移動する方と乗り合わせて運行



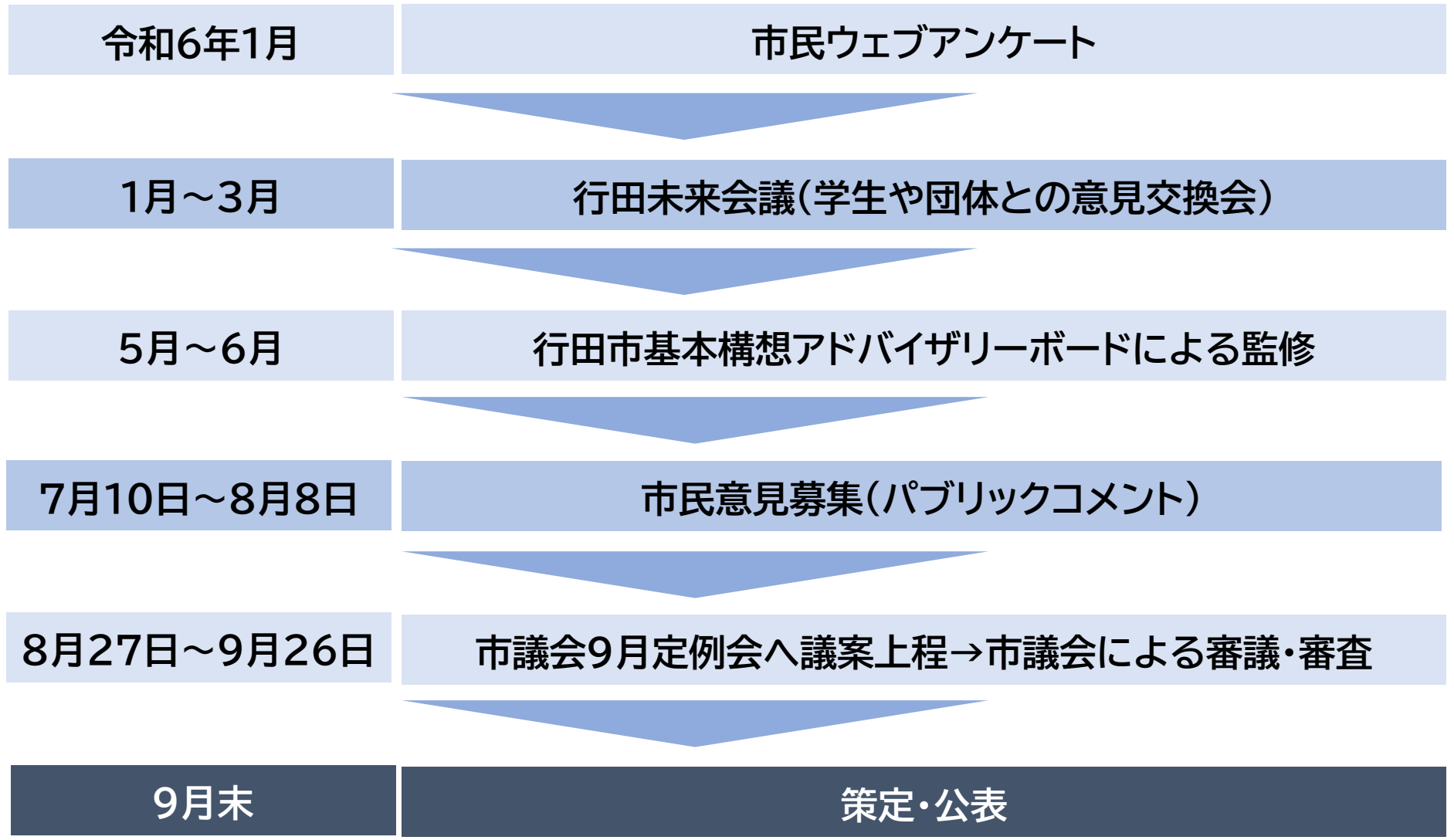
日本版ライドシェア

- ・タクシーが不足する夜間における駅や市内での飲食後等の移動手段を確保

県内初



行田市基本構想 策定の経過



行田市基本構想 アドバイザリーボード

- ◆ 基本構想の策定にあたり、専門的な視点から指導、助言を行う
- ◆ 行田市にゆかりのある委員5名で構成

委員構成

お名前	役職
関根 正昌	株式会社埼玉新聞社 代表取締役
根本 要	スターダスト☆レビュー ボーカル・ギター
長谷川 真一	元ものづくり大学理事長
深町 加津枝	京都大学大学院 准教授
政所 利子	株式会社玄 代表取締役

行田市基本構想・実施計画



詳細はこちらからご覧になれます

行田市総合政策部企画政策課
〒361-8601
埼玉県行田市本丸2番5号
電話 048-556-1111(代表)
メール kikakuseisaku@city.gyoda.lg.jp